

われらバプテスト

～ 仙台教会の歴史シリーズ その 22 ～

小林孝男

1. 週報・総会資料の保存の重要性

週報や総会資料は、その教会の歴史を辿る際の貴重な資料になります。私たちの教会の場合、長崎直得牧師時代～大沼上牧師時代（1953～1963）の週報や総会資料は、残念ですが教会にはほとんど保存されていません。旧会堂の解体にあたり、溜まりに溜まった教会の膨大な「財産」を一挙に整理する必要が生じたため、十分吟味することなく、また歴史的資料の重要性に気付くことなく、色々なものを処分してしまった記憶があります。今から思えばその中に大変貴重な歴史的資料が多数含まれていたのでしょうか。悔やんでも悔やみきれませんが、今となってはどうすることもできません。せめて現存する資料だけでもきちんと保管して、後世に継承していかなければなりません。最低限データ化をして保存することは必要ですし、現物での保存も可能な限り追及すべきでしょう。とにかく教会として資料保存の重要性を自覚し、具体的作業に早急に着手することが大切です。

仙台教会の総会資料の保存に関しては 1985 年以前の前ものは皆無です¹。週報保存に関しては、天野五郎牧師時代以降の 60 年間分（1963～2023）はだいたい保存されていますが、教会に実際保存されているのは後半の 38 年間分に過ぎません²。二人の教会員³が関係者から託され個人の責任において保管しているものを含めて、ようやく 60 年間分の週報がカバーできる状態です。

但し、その 60 年間のうち 1967 年の週報だけが、大変残念ですが全く欠落していました。つまりこの年に教会でどのような出来事が起きたのかを週報で確認することが出来ず、この年は仙台教会の歴史から消えてしまったに等しく、1967 年に教会生活を送っていた方の 1 年間の教会生活が、何も無かったも同然となりかねないと危惧していました。そのような折、今年（2024）になってからですが、故天野五郎牧師の書斎に埋もれていた製本作業途中の 1967 年の週報集を、「歴史」の話を聞きつけたご遺族の方が、わざわざお送りくださいました。

実は、この年は高校 2 年生であった私が初めて仙台教会の礼拝に出席した年です。また半年足らずで信仰決心をし、この年のクリスマスにバプテストを受けようとしていました。ところが、当日朝に受浸拒否宣言をするという「大事件」を起こした年でも

ありました。私にとっては極めて特別な年の歴史が、この週報集によってしっかり記録・保存・継承されることになってホッとしています⁴。

2. 週報や総会資料にバプテストの姿を見る

時代を追って週報や総会資料を眺めていくと、バプテスト派の教会としての特色を示す記事に時折目が留まります。

天野五郎牧師時代（1963～1984）には、総会の他に「常会」というものが開催されていました⁵。今の教会で言えば合同例会に近いものですが、教会の事柄に関して決定機能的な機能も持つ集まりでした。教会員の総意で大切な事柄を決定していくことを、私たちバプテストは大切にします。主に予算や決算が議題となる総会だけでは補いきれない、通常の教会生活における様々な情報の共有、意見交換、意思決定を、常会で行うことを大切にしていました。牧師や執事だけが情報を独占するのはバプテスト的ではありませんので、このような機会を設けることは自然なことです。

金子純雄牧師時代（1984～1998）には、仙台教会では宣教師を協力牧師として招聘し、仙台教会の一員として具体的役割を担ってもらう形をとりました⁶。宣教師の働きは大変貴重ですが、ともすると「宣教師」対「教会」という図式ができて、それぞれが独自の計画に基づき、独自の動きをするということが起きがちです。また、宣教師を必要以上に高い位置に置き、上下関係があるかのような錯覚を、教会内に生み出してしまうこともあります。宣教師がもつ独自の使命に対して理解と敬意を払いつつも、教会の一員として共に福音宣教のために力を合わせるという姿勢は、バプテスト的だと言えます。また、教会員の中から協力牧師を立てるということも、金子牧師時代に行われました⁷。これも極めてバプテスト的でしょう。

山下誠也牧師時代（2003～2010）には、仙台教会では信仰告白の改訂を行いました⁸。この作業は金子時代から委員会を設置して準備してきたことです。委員会には牧師も委員として加わりますが、委員長は教会員です。行きつ戻りつの議論を重ね、教会員からの意見の聴取を丁寧に行い、それを受けてさらに議論を重ねるわけですから、かなりの時間を要しました。しかし、教会の信仰告白の改訂という大事な事柄は、牧師や執事会がトップダウンで決めることではありませんし、そもそもそのようなやり方自体バプテストには馴染みません。無駄に時間をかけたという見方もあるでしょうが、教会員の思いを反映させた改訂内容とするためには、無駄に見え

る時間も決して無駄ではなかったのです。

小河義伸牧師時代（2011～2020）には、病気や身体的理由で浸礼ができない場合は滴礼を可とすること⁹、牧師不在時の礼典執行を特定の教会員へ委託すること¹⁰、祝祷は当日の礼拝説教者（信徒の場合や他教会・他教派からの説教者の場合も含む）が行うことを原則とすることなど¹¹、他教派の方からすれば、「大丈夫なの?!」という声上がりそうな事柄を、教会員の総意で決定しています。

また、コロナ感染予防対策のため、主の晩餐式を1年程執行できない状態が続いていた中、「暫定的な形式の主の晩餐式」¹²、つまり実際にパンと杯に与かるのは司式者のみとし、会衆は心の中でパンと杯に与かる形式の主の晩餐式を、暫時実施することを総会で決定しました。小河牧師が退任し専任牧師不在の時期の総会でしたが、教会員は不安を感じることなく総会に臨み、教会にとって極めて重大なことを、確信を持って議決したのです。

現在の宇都宮毅牧師時代（2021～現在）においても、私たちは福音宣教や教会形成の働きにおいて、バプテストに相応しい道を見つけ出し、歩み続けていきたいと願っています。様々な教派が数多くありますが、主は私たちにバプテストとの出会いを準備してくださいました。その出会いには意味があるはずですし、同時にそこには私たちに託された使命があるはずなのです。

¹ 仙台教会歴史年表原表の「週報保管状況」ファイル参照

² 同上

³ 同上

⁴ 週報(1967/12/24)、週報(2024/04/28_北四番丁通信)

⁵ 週報(1963/11/03)

⁶ T.ウッズ宣教師に関しては週報(1985/05/05、08/25)、L.ミラー宣教師に関しては週報(1986/10/26)、週報(1987/07/05)、B.オデール宣教師に関しては週報(1989/04/23)、資料(1990/05/13_1989 報告総会・抜粋)

⁷ 週報(1993/05/23)

⁸ 週報(2010/03/28)、資料(2010/03/21_2010 予算総会・抜粋)

⁹ 資料(2013/05/19_2012 報告総会)、週報(2013/01/13)

¹⁰ 資料(2018/03/25_2018 予算総会)、資料(2018/05/20_2017 報告総会)

¹¹ 同上

¹² 資料(2021/03/28_2021 予算総会)